

文部科学省科学技術人材育成費補助事業

ダイバーシティ研究環境実現 イニシアティブ(先端型)

事業報告書 令和4年度

国立大学法人琉球大学ジェンダー協働推進室

UNIVERSITY OF THE RYUKYUS
GENDER EQUALITY
PROMOTION OFFICE



「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（先端型）」事業

琉球大学は令和元年度に文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（先端型）」に採択され、令和6年度までの実施期間、下記の目標を掲げ、達成に向けて「女性研究者の上位職登用推進及び管理運営能力向上のための取組」、「より広いダイバーシティ研究環境形成のための取組」、「若手研究者・次世代育成のための取組」等を進めています。

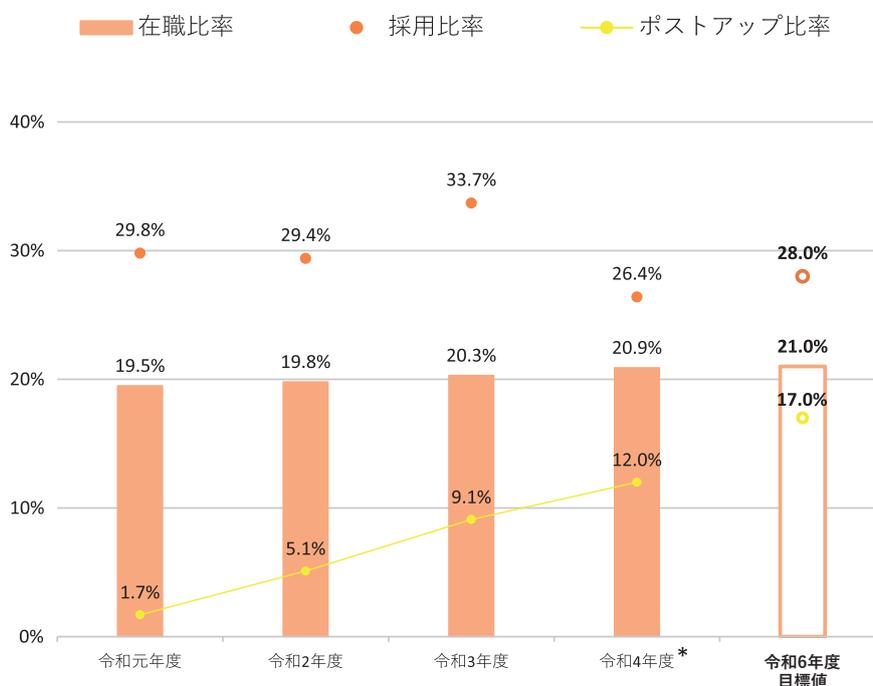
目標

- I 女性教員の管理運営能力を高め、大学の中核への女性教員の参画を推進する
- II 女性を含む若手研究者の在職率を高めるとともに、キャリアパスを整備する
- III より広いダイバーシティ研究環境形成の観点から、グローバル人材を積極的に採用・登用する

数値目標

- ・女性研究者の採用比率 28%
- ・女性研究者の在職比率 21%
- ・女性研究者のポストアップ比率 17%以上
- ・本務教員全体における40歳未満の割合 20%以上

図：琉球大学女性研究者の在職・採用・ポストアップ比率と目標値



※令和4年度在職比率、採用比率は令和5年3月31日時点の見込み値

女性研究者の上位職登用推進及び管理運営能力向上のための取組

上位職登用を一層推進させるため、本学では平成30年度から特に女性教授の少ない自然科学系分野に特化した「自然科学系分野における女性教授限定公募」を実施し、その効果を踏まえ令和2年度から対象分野を全学に拡大した「女性教授限定公募」を継続して行っています。

また、女性教員自らがリーダーシップを発揮してシンポジウム等の企画・運営に携わる機会を提供する「オーガナイザー養成支援」や、国際通用性を高めグローバルに活躍するリーダーとしてのスキルを習得するための「リーダー育成海外研修」等の取組を実施しています。

◆教員ポスト戦略的再配分（重点改革推進枠）による女性教授限定公募の実施

令和4年度においても、これまでと同様に教員ポスト戦略的再配分（重点改革推進枠）を活用した女性教授限定公募を実施し、令和5年度内の公募に向けて学内実施部局等の募集を行いました。

なお、令和3年度配分を活用した女性教授限定公募は今年度工学部で行われ、令和5年度に着任される予定です。

◆オーガナイザー養成支援

将来、学内だけでなく学外の学会や外部委員会等の活動においてもリーダーシップを発揮できる人材の育成を目的とし、女性研究者自らがオーガナイザーとして企画・運営等に携わる研究発表会やセミナー、シンポジウム等の開催を支援し、係る費用を補助するものです。

令和4年度は下記2名を採択し、プログラム開催を支援しました。

対象 本学に在籍する女性教員（特任教員及び特命教員は除く）

内容 プログラムの内容や招へい者との連絡・調整を始め、開催に係る広報や会場設営などの事前準備、当日の進行等、女性教員自らが主催者としてリーダーシップを発揮し進めるものに対し、実施に係る費用（招へい旅費・謝金・会場費・印刷費等）の全額または一部を補助する。

利用者 照屋 典子（医学部 教授）
FDシンポジウム（令和4年11月23日開催）
「VUCA（ブーカ）の時代 看護に問われるリーダーシップとは」

高橋 美奈子（教育学部 准教授）
研修会（令和5年1月21日、2月4日開催）
「日本語を母語としない児童生徒とともに学べる学校づくり・授業づくり」



「オーガナイザー養成支援を利用して」 教育学部子ども教育開発専修 准教授 高橋 美奈子

このたび「オーガナイザー養成支援」を受け、県内の学校教育関係者等を対象に、「日本語を母語としない児童生徒とともに学べる学校づくり・授業づくり」と題した一般公開研修会を、2023年1月21日と2月4日に開催することができました。心より御礼申し上げます。

沖縄県内の公立学校に在籍する日本語指導が必要な児童生徒は、この10年間で3.7倍も増加していますが、数としては500人弱ということもあり、学校や地域での受入れ体制整備や当該児童が在籍する学級での授業づくりといった課題が、子どもに関わる関係者だけの課題に留まってしまっていました。今回、多くの参加者を募り、研修会を対面で開催できたことにより、県内の学校で孤軍奮闘している日本語指導教員や支援者だけでなく、教育委員会関係者、管理職、学級担任、地域支援者、大学生等と幅広い方に関心を持っていただき、さらに関係者同士の新たなつながりを創ることができました。

また、日本語を母語としない児童が在籍する学級担任の先生方に実際に社会科の授業を実施していただき、日本語を母語としない子どもが楽しく思考しながら授業に参加している様子を見せていただいたことで、子どもの言語能力に課題があるから授業参加が困難になるのではなく、周りの環境や働きかけ次第で可能になるということを示すこともできました。このたびの研修会開催を通して、県内には多くの素晴らしい人材や実践、つながりが豊富にあることを改めて実感でき、今後の活動の力になりました。ありがとうございました。



◆リーダー育成海外研修

国際的な学術研究の場において、リーダーシップを発揮し活躍できる人材を育成することを目的に、本学の女性教員・研究者を主な対象とするセミナー「英語プレゼンテーション」を、対面とオンラインで2日間に渡って開催しました。

セミナーは、本学のグローバル教育支援機構に所属する外国人教員2名が講師を務め、国際学会での発表や国際研究グループでのディスカッション等を想定したプレゼンテーションの実践スキルの向上や、新たな学術論文の引用管理ソフトの活用について学ぶ機会を提供しました。

なお、本セミナーは若手研究者及び次世代女性研究者育成も兼ね、本学の博士課程・博士後期課程、専門職学位過程に所属する女子大学院生にも参加を呼びかけました。

●「英語プレゼンテーション –How to Present Your Paper Effectively in English–」

令和5年3月16日(木)、17日(金)

講師：琉球大学グローバル教育支援機構 ジョージ・マクリン教授

琉球大学グローバル教育支援機構 アダム・マレー教授



◆メンタリング

本学の女性教員・女性研究者を対象とした「ゆんたく de メンタリング」を3月28日(火)にオンラインで実施し、健全なワーク・ライフ・バランスを実現しながら上位職を目指すことをテーマに、グループでのメンタリングを行いました。

上位職として活躍する女性教員からお話を伺いながら、上位職の業務との両立や、琉球大学が推進するDX「RX」をどのように活用したらよいか等について意見交換も行いました。

この他にも、女性研究者の国際通用性を高め、将来リーダーとして大学を牽引する人材を育成し、女性教員のキャリアアップと上位職登用を推進することを目的に、以下の支援策を実施しています。

◆国際学会派遣 + 1 Visit

本学に所属する女性の教授・准教授・講師（特任教員及び特命教員は除く）を対象に、国際共同研究の推進や新たな研究ネットワークの構築に関連する訪問、または教育研究機関等における管理運営に関する先進的取組の調査を目的とした訪問を「+ 1 Visit」として支援する制度。国際学会等において自らの研究成果発表を行うための渡航に合わせ「+ 1 Visit」を旅程に加えた出張に対し、係る旅費・学会参加費等の費用の全額または一部を支援する。（オンラインによる学会参加も対象）

◆女性教員海外調査派遣制度

本学に所属する女性の准教授・講師（特任教員及び特命教員は除く）を主な対象に、海外の研究機関において、研究及び組織運営に関する調査に専念できる環境を提供する制度。本制度利用期間中、職務の全部又は一部を免除し、交通費や滞在費等研究活動に必要な旅費及びベンチフィアの全額または一部を支援する。加えて、本制度利用中の本学教育に支障がないよう、代替非常勤講師雇用に係る経費を措置する。（オンラインを活用した本制度の利用にも対応）

より広いダイバーシティ研究環境形成のための取組

女性研究者のみならず若手研究者やグローバル人材への支援と、ダイバーシティ研究環境の整備を促進させるため、セミナーやシンポジウム等の開催を通してDiversity, Equity and InclusionやSDGs、働き方改革等について理解を深めるとともに、本学の新たな方針の策定や方策・取組の実施を検討し展開に向けて進めています。

◆ダイバーシティ推進トップセミナー

北里大学 学長の島袋香子先生を講師にお迎えし、女性の活躍や上位職登用をテーマに、オンラインセミナーを開催しました。本セミナーは、女性教員・女性研究者のキャリアやリーダーシップ、人材育成について理解を深め、本学の女性活躍推進の取組がより一層促進されることを目的に実施しました。

本学の卒業生でもいらっしゃる島袋先生からは、後輩にあたる女性研究者に対して、様々な経験を積むことは研究者・教育者としての豊かさや自信に繋がるとのアドバイスがあり、上位職者として組織運営に参画し、周りの女性のロールモデルとなることを期待しているとのエールをいただきました。

●「女性が活躍する大学はどのような大学か」

令和4年8月23日(火)

講師：島袋 香子 先生 (北里大学 学長)



◆琉大未来共創フォーラム

大阪芸術大学 客員准教授、佐賀女子短期大学 客員教授で、TV等のメディアでもご活躍されている谷口真由美先生を講師に迎え、「社会や組織の中のダイバーシティ」と「女性活躍」をテーマに、ダイバーシティを実現するための組織の在り方や考え方、女性活躍の意義と問題点等についてご講演いただきました。

本講演は本学地域連携推進課との共催による「琉大未来共創フォーラム」の一環として行われ、本学の教職員や学生のみならず、広く県内・地域の皆様を対象に、Diversity, Equity and Inclusionの実現と、SDGsの目標(目標5「ジェンダー平等」、8「働きがいも経済成長も」、10「人や国の不平等をなくそう」、17「パートナーシップで目標を達成しよう」)達成について理解を深めていただくことを目的に実施しました。

●第11回 琉大未来共創フォーラム

「ダイバーシティのない社会に未来がない理由 考えてみませんか？」

令和4年8月7日(日)

講師：谷口 真由美 先生

(大阪芸術大学 客員准教授、佐賀女子短期大学 客員教授)



◆グローバル人材の採用・登用促進

本学では令和4年度において、これから先の10年を見据えた「国際戦略基本方針」を新たに策定しました。当該方針は、本事業で掲げる外国人教員等をはじめとするグローバル人材の採用及び登用の取組を促進させる基盤となるもので、今後は本方針の下、具体策を実施するとともにダイバーシティ研究環境の実現に向けて一層進めて参ります。

若手研究者・次世代育成のための取組

女性研究者の積極的な採用を一層促進するため、公募や採用に関連する文書や規定等の取扱いについて見直しを行いました。

また、若手研究者のキャリア支援として、ワークライフバランスを実現しながら円滑に教育・研究活動を進めるための「研究活動等支援員」の配置や、本学制度の理解と利用促進を目的としたイクボスセミナーを実施しました。

さらに、女性研究者の次世代育成のため、女子学生・女子大学院生を対象とした育成・支援事業も継続して実施しています。

◆女性教員・女性研究者の採用者数増加に向けた積極的な取組

本学が実施する公募時の文書に、「琉球大学は、男女共同参画社会基本法の趣旨に則り、選考過程で研究、教育、管理運営等、職務遂行に必要とされる能力が同等と認められる場合には、女性を優先的に採用します。また、教員選考にあたっては、出産・育児・介護等に従事した期間について配慮します。」との全学統一文言を記載することと決めました。これに伴って、各学部等で策定されていた教員選考内規、さらに応募書類様式についても見直しが行われました。

また、公募を行う際には、優秀な女性応募者を確保するため、積極的な公募情報の提供等、積極的かつアグレッシブなリクルート活動を行っていただくよう公募に関する情報を共有し、部局等に働きかけを行っています。

さらに、本学の応募から採用までの選考過程における状況を把握するため、教員選考調書における報告事項項目の見直しを行いました。

■ 琉球大学の公募情報はこちらから

教員募集



医学部・医学研究科



琉球大学病院



◆研究活動等支援員制度

出産・育児や介護等のライフイベント中の研究者の教育研究支援を行うため、研究活動等支援員を雇用し、配置しました。ワークライフバランスを保ちながら研究者が能力を最大限に発揮できる環境を整備することで、研究力の向上のみならず大学の管理・運営や社会貢献に積極的に携わる人材を育成することを目的としています。また同時に、支援員として学部学生・大学院生を雇用することにより支援員自身がキャリアパスを考える機会となるよう、本制度の活動を通して次世代の研究者育成にも努めています。支援員となった学生の中には、大学院(修士課程・博士課程)への進学や海外留学、起業し県内・地域のための活動を展開するなど、支援員としての経験を活かし活躍しています。

■ 表 令和4年度研究活動等支援員制度 支援内訳(人)

	第1期	第2期
利用者 (教員・研究者)	8	8
支援員	11	14

◆イクボスセミナー

令和4年より育児・介護休業法が段階的に改正され、育児休業を取得しやすい雇用環境の整備が法的に義務付けられました。本学ではその一環として、オンデマンド動画配信にて育児休業取得促進を目的としたセミナーを実施しました。イクボス育成の足掛かりとして管理職を主な対象とした本セミナーでは、育児休業制度の正しい知識や、イクボスとしての働き方についての学びを深める機会となりました。また、本学ハラスメント相談支援センターによる協力のもと、マタハラ・パタハラ防止について意識啓発を図ることができました。

育児休業取得促進セミナー (イクボスセミナー)

配信期間：令和5年3月～令和5年5月31日

受講必修：部局長、部長級職員

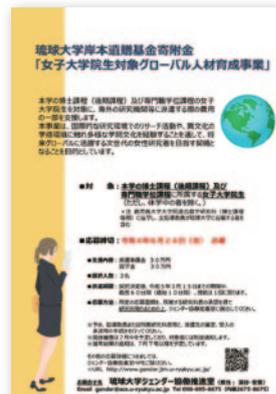
受講推奨：係長級職員、育児休業手続き担当者

◆ 琉球大学岸本遺贈基金寄附金「女子大学院生対象グローバル人材育成事業」

本学では女性研究者支援の一環として次世代女性研究者の育成を進めており、岸本遺贈基金寄附金事業において、本学の博士後期課程及び専門職学位課程に在籍する女子大学院生を海外の教育研究機関等に派遣しています。

国際的な研究環境におけるリサーチに携わることや、異文化の学修環境に触れ多様な学問文化を経験することで、優れた研究成果の発表に結びつけるとともにスキルアップやモチベーションの向上を図り、将来グローバルに活躍する次世代の女性研究者を目指す契機となるよう実施するもので、今年度は下記3名を採択し、派遣しました。

採 択 者 洪谷 文子 (保健学研究科 博士後期課程 1年)
山崎 明日香 (法務研究科 専門職学位課程 1年)
仲間 裕夏 (法務研究科 専門職学位課程 1年)



「インドネシア共和国ロンボク島西ヌサテンガラ州における思春期保健に関するフィールドワーク」

琉球大学大学院保健学研究科 博士後期課程 洪谷 文子 (派遣期間：2022年8月20日～9月2日 14日間)

インドネシア共和国ロンボク島西ヌサテンガラ州において、マタラム大学医学部研究協力者のサポートのもと、思春期保健に関する現地調査を実施しました。本調査では、思春期保健に携わる保健局、教育局、マタラム大学教育学部教員養成機関、公立高等学校、および国際NGOを訪問し、情報収集を行いました。各訪問先において思春期世代の保健課題として挙げられていたことは、児童婚と早期妊娠の増加でした。さらに、新型コロナウイルス感染症が拡大する中、児童婚はさらに増加していたことが明らかになりました。このことから、思春期世代の児童婚と早期妊娠を未然に防ぐためには、保健と教育の双方の連携体制と国際NGO等の外部機関によるアプローチが必要であると思われます。今回の現地調査で得た所見をもとに、同地域の思春期保健課題の解決に向けて、更なる研究を計画しています。



西ヌサテンガラ州保健局にて(洪谷さんは左から3番目)

◆ 琉球大学女子学生学術研究等活動うない奨励賞

琉球大学うない女性研究者・リーダー育成基金 第2回「琉球大学女子学生学術研究等活動うない奨励賞」を実施しました。

本賞は、将来の学術研究を担う優秀な若手女性研究者及び女性リーダーの育成を目的に、本学に在籍する女子学生の意欲的な研究活動や社会貢献等の活動を奨励するものです。

対象となる女子学生は、すでに発表された論文や著書等の業績または地域及び国際社会への貢献等、他の学生の規範となる顕著な実績のある者としており、広く学内から応募を募り厳正なる審査を行った結果、今年度は以下の2名が表彰されました。

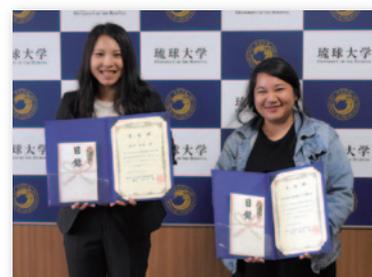


写真 左：古川真央さん
右：Yukiko Kisino Mullerさん

受 賞 者 グランプリ 古川 真央 (理工学研究科 博士後期課程 1年)
準グランプリ Yukiko Kisino Muller (理工学研究科 博士後期課程 3年)

ニュースレター・HP 等による情報発信・報告

ニュースレターの発行やジェンダー協働推進室HPを通して、本事業の取組について情報発信及び報告を行っています。

●ニュースレター『うない通信 for 先端型』Vol.5

(令和4年12月発行)

<https://www.gender.jim.u-ryukyu.ac.jp/sentan/newsletter/>



●先端型 HP

<https://www.gender.jim.u-ryukyu.ac.jp/sentan/>



●琉球大学「統合報告書 2022」

本学の財務情報や特色ある教育研究活動の取組状況、活動実績を多く取り上げた「統合報告書」が新たに発行されました。「ダイバーシティ&インクルージョンの取組」として、女性研究者支援の取組についての報告が掲載されています。

<https://www.u-ryukyu.ac.jp/wp-content/uploads/2022/12/e15592b298cae41f222961391eb91de7.pdf>



国立大学法人琉球大学 ジェンダー協働推進室

University of the Ryukyus
Gender Equality Promotion Office

〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町字千原1番地

TEL 098-895-8675 FAX 098-895-8760

Email gender@acs.u-ryukyu.ac.jp

<https://www.gender.jim.u-ryukyu.ac.jp/sentan/>